

## II. シンポジウム記録

### 開会, ごあいさつ

#### 司会(菅谷)

それでは、定刻となりましたので、ただ今より NPO 法人ピピオ子どもセンター設立 5 周年記念シンポジウム「居場所のない子どもたちのスタートラインづくりのために」を開催します。本日は、雪の中、このようにたくさんの方々にお越しいただき、ありがとうございます。私は、本日司会を務めさせていただきます広島弁護士会の菅谷英美と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。(拍手)

(以下、配布資料の説明、アンケート記入のお願い、マスコミによる撮影の了解などを来場者に対し行った)

#### 司会(菅谷)

それでは初めに、開催にあたりまして、主催者を代表しまして、NPO 法人ピピオ子どもセンター理事・スタートラインプロジェクト実行委員会委員長、平谷優子弁護士より、皆様にご挨拶を申し上げます。

#### ピピオ子どもセンター理事・スタートラインプロジェクト実行委員長(平谷)

みなさまこんにちは。高い所から失礼します。

本日は悪天候が予想される中でこれだけの方にお集まりいただきましたことを、まずはお礼を申し上げたいと思います。昨日の時点では、(雪のため)開催自体が心配な状況で、遠方から来てくださるパネリストの方もいらして、本当にどうなることかと思っておりました。幸いにも広島市内はこのように比較的穏やかな天候になりまして、こういう形で開催できて本当に良かったと、ひとまず安堵をしております。

さて、2011 年 1 月に、ピピオ子どもセンターが NPO 法人として設立しました。これは、2009 年から広島弁護士会において子どものシェルターを何とか作りたいということ、色々メンバーで議論し、2010 年の 4 月に、舟入高校の高校生と弁護士などが一緒になって演劇をし、そこから実行委員会を作って、設立に漕ぎ着けたというものです。

準備の過程において、最初の議論こそ弁護士だけで行いましたが、実行委員会ではたくさんの市民の方々にご協力いただき、シェルターの場所の選定からその後の運営において、本当にたくさんの方のご協力の上で、今のピピオが成り立っていることを、改めてお礼を申し上げたいと思います。

2011 年 4 月から子どものシェルター「ピピオの家」、2014 年の 9 月から自立援助ホーム「はばたけ荘」ができ、私たちは、目の前の子どもたちに本当に追われながら、目の前の事だけを見るような状態で走ってきました。ただ、法人設立 5 年を機に、少し視線を上げて、これまでの 5 年間の歩みを振り返り、これからの活動を我々も考えて参りたいですし、そういうことを



皆様と一緒に出来たらということで、今日の会を進めております。

この間において、2013年からマツダ財団のご援助を頂きまして、スタートラインプロジェクトというものを実施しています。ピピオに来ている子どもたちの自立やピピオのスタッフの研修などにおいて、いろんな形でご協力を頂いております。そういった活動については、またご報告して参りますが、いずれにしましても、弁護士においてスタートだけは切りましたが、そこから本当にたくさんの方のご支援ご協力によって子どもたちの支援ができていると、そういうことについて本当に感謝した5年間であります。5年を迎えたことを一区切りにしまして、今日が、これからの事を一緒に考える場になればいいなと思っています。

スタートラインプロジェクトという名前は、今ピピオの理事をしていています司法書士の方が作って下さった名前です。今日がピピオにとって、またピピオと同じ思いを持ってこの場に駆けつけて下さったみなさまにとっての、新たなスタートラインの場になりますように、今日は祈っています。17時前には終わる予定ですので、皆様最後まで是非お付き合いくださいますよう、よろしくお願いいたします。

